

いわふね
自然愛好会
会報

2023. 9. 20

第57号

発行:いわふね

自然愛好会

日本国山自然観察会

5月21日（日）に「日本国山自然観察会」がありました。参加者は12名（市民4、会員8名）。中には、車のトラブルで当日キャンセルを余儀なくされた人もありました。

集合場所の山北支所駐車場で開会式をおこないました。ここには、府屋在住の本間文祐会員が駆けつけて下さり、全員に飲料水（缶ジュースなど）の差し入れのご厚意がありました。また、愛犬と散歩中の古山顧問も出発を見送って下さいました。

駐車場から小俣溪谷の道路を通り、登山口駐車場（旧小俣小グランド）に車をとめ、軽い準備運動を行って、小学校前登山口から観察会を行いながら山頂（555m）をめざしました。最初に出会ったのはショウジョウバカマ、コシノカンアオイなど。初めて母親と一緒に観察会に参加した菅井さん（小3）は、盛んにデジカメのシャッターを切っていました。松ヶ根広場ではユキツバキの花に出会い、ナナフシが腕に止まってくれました。沖見休憩所では手作りのベンチに腰を下ろし、日本海側をながめました。蛇逃峠には東屋があって、ここで休息し、小名部方面を眺望しました。ここから山頂までのコースは少し下り、再び上り返すと、そこは山頂。見慣れた標柱、小屋（登頂の証のゴム印あり）、展望台がありました。

山頂のベンチで思い思いに昼食を広げ、また、展望台に登り自由時間を過ごしました。日光が当たる場所にはギフチョウが止まりにきました。

午後からは集合写真を撮ったあと、富樫俊文会員から堀切峠（小俣一小名部）で繰り広げられた戊辰戦争の激戦の説明を聞きました。

その後、下山。蛇逃峠からは、蔵王堂登山口に降りることにしました。東屋から下の登山道は急こう配で、尻餅をつく人が相次ぎました。

ブナ林ではコケイランの金色の花に目を奪われ、カメラを持っている人はシャッターを切りました。ユキツバキ群生地を抜けて登山口に到着後は白神社に寄り、大杉を見ました。その後、宿場町の雰囲気強く漂う小俣集落を通り、左右の家並みを眺めながら駐車場に戻りました。

帰路の途中、大川橋下の河原に立ち寄り、日本国・三面一棚倉構造線の日本国片麻岩を見学し、手ごろな大きさの片麻状マイロナイトとポーフィロイド様岩を拾いました。

観察会に先立ち、5月9日に参加者6名で下見会を実施。確認植物は90種でした。

(P3参照)



コケイラン

観察会に参加して

村上市 菅井 結生さん(小3)

日本国の山に登ってみて、見たことのない植物や天然記念物のギフチョウを見ることができてうれしかったです。また、山に登りたいです。また、わたしの知らないことをたくさん教えてくれてありがとうございました。

管堅八幡宮社叢林・寝屋漁港鉾立岩周辺自然観察会

6月18日（日）に「管堅八幡宮社叢林・寝屋漁港鉾立岩周辺自然観察会」を行いました。
参加者は27名（市民5名、うち2名は小学生、会員19名、他に記者1名）でした。

寝屋漁港駐車場で開会式を終えて、移動。鉾立岩は寝屋漁港の出入り口にそびえ立つ岩で、梅田会員の説明では岩質は玄武岩。この岩には縞状の模様と断層がみられること。笹川流れは花崗岩であるが、寝屋から県境の海岸にかけては玄武岩（火成岩）でできているとの話。補足として、管堅八幡宮が建っている岩体の海側は、新潟地震の折には幅4m、横80mが崩壊し、このため社殿は前方へ建て替えたとの説明がありました。

この鉾立岩の根元のわずかな海岸にはキリンソウ、ハマギク、ハマゼリ、スナビキソウなどの海浜植物が高密度で分布。2班に分かれて観察しました。

八幡宮へ移動して、横山会員から「この社叢林は南方系のタブノキとヤブツバキ群落と北方系のシナノキ、オオバボダイジュの双方が温存されていることで貴重である」との説明があり、補足として、ここはコシノカンアオイとエムラマイマイの模式標本の原産地である、との話がありました。

なるほど、階段に足を踏み入ると「あった！」とエムラマイマイを発見する人が多く、社殿にかけて階段や石灯籠、ヤブツバキの幹などに数多く発見されました。その他のカタツムリとしてはニホンマイマイ、オオキビガイ、ナミギセルなど。

6月9日には12名の参加者で下見会を実施し、132種の植物を確認しました。
(P4参照)



キリンソウ



エムラマイマイ



観察会に参加して

村上市 佐藤 里恵さん(会員)

この度の観察会では、植物と岩石を楽しく学ばせていただきました。

寝屋港の鉾立岩を間近に観察し、地球のパワーの大きさに感嘆し、太古のロマンを感じたり、八幡宮社叢林では神が宿ったご神木や手つかずの自然を五感で感じとり、自分自身もパワーチャージされました。

お昼は友と山北の食を味わい、体の中からも満たされました。

みなさんには、大変お世話になりました。ありがとうございました。

観察会に参加して

村上市 富樫 喜美江さん

鉾立岩でイワユリがたくさん咲いていてきれいでした。周りにキリンソウなど海岸植物がたくさんありました。写真を撮ってきたので、眺めて楽しんでいます。

管堅八幡宮では、エムラマイマイやニホンマイマイを教えてくださいました。カタツムリにもいろいろな種類があることが分かりました。

この観察会に誘っていただき、有意義な一日を過ごすことができました。ありがとうございました。

日本国山自然観察会下見時の確認種リスト

日時:2023年5月9日

場所:日本国山(日本国ふれあいパーク～松ヶ峰～蛇逃峠～水場分岐点～山頂)

参加者:増子、田川、斎藤、斎藤、中村、富樫、計 6名

番号	和名	科名	備考	番号	和名	科名	備考
1	アオダモ	モクセイ	※	46	ゼンマイ	ゼンマイ	
2	アオハダ	モチノキ	※	47	タガネソウ	カヤツリグサ	
3	アカイタヤ	ムクロジ		48	チゴユリ	イヌサフラン	
4	アカシデ	カバノキ	※	49	チマキザサ	イネ	
5	アカマツ	マツ		50	チャボガヤ	イチイ	
6	アキノキリンソウ	キク	※	51	ツクバネ	ビャクダン	
7	アズキナシ	バラ	※	52	ツルアリドオシ	アカネ	
8	イタドリ	タデ		53	ツルシキミ	ミカン	
9	イワガネソウ	ホウライシダ	※	54	ツルリンドウ	リンドウ	
10	イワガラミ	アジサイ		55	トリアシショウマ	ユキノシタ	
11	ウコギ	ウコギ		56	ナナカマド	バラ	サビバナナカマドかも。さび色の毛がはっきりしない。
12	ウゴツクバネウツギ	スイカズラ	※	57	ニシキゴロモ	シソ	
13	ウスノキ	ツツジ		58	ニワトコ	スイカズラ	
14	ウスバサイシン	ウマノスズクサ		59	ノギラン	キンコウカ	
15	ウチワドコロ	ヤマノイモ	※	60	ノダフジ	マメ	
16	ウラジロノキ	バラ	※	61	ノブキ	キク	※
17	ウリノキ	ウリノキ	※	62	ハイイヌツゲ	モチノキ	
18	ウワミズザクラ	バラ	※	63	ハウチワカエデ	ムクロジ	
19	エゴノキ	エゴノキ		64	ハナニガナ	キク	※
20	エゾイタヤ	ムクロジ	※	65	ハナヒリノキ	ツツジ	※
21	エゾユズリハ	ユズリハ		66	ハナミズキ	ミズキ	
22	オオカメノキ	ガマズミ	ムシカリ	67	ハリギリ	ウコギ	
23	オオバクロモジ	クスノキ		68	ハンショウヅル?	キンポウゲ	※
24	オオヤマザクラ	バラ	※	69	ヒメシャガ	アヤメ	
25	オクチョウジザクラ	バラ		70	ブナ	ブナ	
26	オクノカンスゲ	カヤツリグサ	※	71	ホオノキ	モクレン	
27	オトコエシ	オミナエシ		72	ホツツジ	ツツジ	※
28	オヤリハグマ	キク		73	マユミ	ニシキギ	※
29	キクザキイチゲ	キンポウゲ		74	マルバアオダモ	モクセイ	
30	キッコウハグマ	キク		75	マルバマンサク	マンサク	※
31	キツネノボタン	キンポウゲ	※	76	ミズナラ	ブナ	
32	キバナアキギリ	シソ	※	77	ミツバアケビ	アケビ	
33	キンミズヒキ	バラ		78	ミヤマガマズミ	ガマズミ	※
34	クマイチゴ	バラ		79	ミヤマナルコユリ	キジカクシ	
35	クリ	ブナ		80	ムラサキシキブ	シソ	
36	コシアブラ	ウコギ		81	モミジイチゴ	バラ	
37	コシノカンアオイ	ウマノスズクサ		82	ヤブコウジ	サクラソウ	
38	コナラ	ブナ		83	ヤブツバキ	ツバキ	※
39	サカゲイノデ?	オシダ	調べてもはっきりしなかった。	84	ヤマウルシ	ウルキ	
40	サジガンクビソウ	キク		85	ヤマツツジ	ツツジ	※
41	シシガシラ	シシガシラ		86	ヤマモミジ	ムクロジ	
42	シナノキ	アオイ	※	87	ヤマユリ	ユリ	
43	ショウジョウバカマ	メランチウム		88	ユキグニミツバツツジ	ツツジ	
44	スイバ	タデ		89	ユキツバキ	ツバキ	※
45	スギ	ヒノキ		90	リョウブ	リョウブ	

菅笠八幡社叢林・寝屋漁港周辺自然観察会下見時の確認種リスト

日時:2023年6月5日

場所:銚立岩・菅笠八幡社叢林(銚立岩の周辺・菅笠八幡社叢林の下から上まで)

参加者:横山、工藤、小嶋、梅田、河内、田川、安達、斉藤、斎藤、永井、中村、富樫計 12名

番号	和名	科名	備考	番号	和名	科名	備考
1	アオツツラフジ	ツツラフジ		67	スイバ	タデ	
2	アカツメクサ	マメ		68	スカシユリ	ユリ	別名:イワユリ
3	アカネ	アカネ		69	スギ	ヒノキ	
4	アキカラマツ	キンポウゲ		70	スギナ	トクサ	
5	アサツキ	ヒガンバナ		71	ススキ	イネ	
6	アマニュウ	セリ	※	72	スナビキソウ	ムラサキ	※
7	ケイタドリ	タデ		73	スマレサイシン	スマレ	
8	イタヤカエデ	ムクロジ	※	74	セリモドキ	セリ	
9	イヌトウバナ	シソ	※	75	センニンソウ	キンポウゲ	
10	イヌワラビ	イワデンダ		76	タチツボスミレ	スミレ	オオタチツボスミレかも。
11	ウスバサイシン	ウマノスズクサ		77	タブノキ	クスノキ	
12	ウチワドコロ	ヤマノイモ		78	タマバシロヨメナ	キク	
13	ウツギ	アジサイ		79	チヂミザサ	イネ	
14	ウド	ウコギ		80	チャボガヤ	イチイ	
15	ウラシマソウ	サトイモ		81	ツタウルシ	ウルシ	
16	ウリノキ	ミズキ		82	トウバナ	シソ	
17	ウワバミソウ	イラクサ		83	ドクダミ	ドクダミ	
18	エゴノキ	エゴノキ		84	トチノキ	ムクロジ	
19	エゾオオバコ	オオバコ	※	85	トリアシショウマ	ユキノシタ	
20	エゾノギシギシ	タデ		86	ニガナ	キク	
21	エノキ	アサ		87	ノアザミ	キク	
22	エビヅル	ブドウ	※	88	ノダフジ	マメ	
23	オオイタドリ	タデ		89	ノブドウ	ブドウ	
24	オオオナモミ(実)	キク	※	90	ノボタン	ノボタン	
25	オオカモメヅル	キョウチクトウ		91	ハマギク	キク	
26	オオニワトコ	ガマズミ	ニワトコかも。	92	ハマゼリ	セリ	※
27	オオバコ	オオバコ	※	93	ハマツメクサ	ナデシコ	※ ツメクサ?
28	オオハナウド	セリ		94	ハマヒルガオ	ヒルガオ	
29	オトコエシ	オミナエシ		95	ハマボッサ	サクラソウ	※
30	オトコヨモギ	キク	※	96	ハリギリ	ウコギ	
31	オニウシノケグサ	イネ		97	ハルジオン	キク	
32	オニタビラコ	キク		98	ヒサカキ	サカキ	※
33	オニノゲシ	キク		99	ヒトリシズカ	センリョウ	
34	オニヤブソテツ	オシダ		100	ヒルガオ	ヒルガオ	
35	ヤブマオ	イラクサ		101	ヒロハウラジロヨモギ	キク	
36	オヤリハグマ	キク		102	ヒロハテンナンショウ	サトイモ	
37	カモガヤ	イネ		103	フキ	キク	※
38	カヤ	イチイ	※	104	フデリンドウ	リンドウ	※
39	カラムシ	イラクサ	※	105	ブナ	ブナ	
40	ギシギシ	タデ		106	ヘクソカズラ	アカネ	
41	キツタ	ウコギ		107	ヘビイチゴ	バラ	
42	キバナアキギリ	シソ		108	ホウチャクソウ	イヌサフラン	
43	キリンソウ	ベンケイソウ	※	109	ホソバヤハズエンドウ	マメ	
44	クサイ	イグサ		110	マツバギク	ハマミズナ	
45	クサギ	シソ		111	マルバグミ	グミ	※
46	クサボタン	キンポウゲ	※	112	マルバダケブキ	キク	※
47	クジャクシダ	ホウライシダ		113	ミズヒキ	タデ	
48	クズ	マメ		114	ミツバ	セリ	
49	クリ	ブナ		115	ミヤマナルコユリ	キジカクシ	
50	クルマバソウ	アカネ	※	116	ムラサキシキブ	シソ	
51	ケヤキ	ニレ		117	メマツヨイグサ?	アカバナ	
52	ゲンノショウコ	フウロソウ		118	モミジガサ	キク	※
53	コウライテンナンショウ	サトイモ		119	ヤツデ	ウコギ	
54	コクサギ	シソ	※	120	ヤハズエンドウ	マメ	
55	コシノカンアオイ	ウノスズクサ		121	ヤブコウジ	サクラソウ	
56	コタニワタリ	チャセンシダ		122	ヤブジラミ	セリ	
57	コナスビ	サクラソウ		123	ヤブタビラコ	キク	
58	コメツツメクサ	マメ		124	ヤブツバキ	ツバキ	
59	サカゲイノデ	オシダ		125	ヤブヘビイチゴ	バラ	
60	サワアザミ	キク		126	ヤブマオ	イラクサ	
61	サワハコベ	ナデシコ		127	ヤマウルシ	ウルシ	
62	サンショウ	ミカン		128	ヤマグワ	クワ	
63	シシウド	セリ		129	ユズリハ	ユズリハ	エゾユズリハかも。
64	シャガ	アヤメ		130	ヨモギ	キク	
65	ジュウモンジシダ	オシダ		131	リョウメンシダ	オシダ	
66	シロツメクサ	マメ					

荒川頭首工豪雨災害現場観察会

7月23日（日）花立の頭首工において、標記の観察会が開催されました。参加者は24名（市民4、会員18名）、案内の方数名。

荒川運動公園で開会式を行い、数台の車に分乗し、会場へむかいました。国道113号の両側の山肌は崩れているところが多く見られ、重機など工事車両がとまっていました。頭首工に着くと川崎さんと職員の方が待っておられ、案内されてゲート内に入り、右岸側に移動して説明を聞きました。頭首工の歴史、利用目的など丁寧に説明してくださいました。

次に、昨年の8月3日から4日にかけての状況では、雨は時間と共に増し、どんどん水位が上昇するダム湖、茶色に濁った大量の濁流、押しかける流木・・・。たくさんの写真で当時の状況を説明していただきました。昭和42年の羽越水害後の48年に完成したこの頭首工が被害を少なくしてくれたのだ、と改めて思いました。

真夏の太陽の下、眼下を流れる荒川の流は青く輝いていました。1年前を思い出し、治水の大切さを学んだ時でした。案内された川崎さんと関係者に感謝申し上げます。（川村 記）



災害現場の土石流・流木跡（上）と片付けられ整地された現場（下）

観察会に参加して

村上市 中村 さん

三年前、小岩内の嶽神社から嶽薬師に登り、成立ちが要害山や朴坂山とは違うが、高坪山とは近いことを知りました。今回、観察会に参加して、基岩である花崗閃緑岩は風化崩壊し易く、氷河期以来50回も崩壊が繰り返されていたことを知りました。隆起による傾斜も35～70度であり、崩壊を助長している要因といえます。それが古層である釜杭層（津川層）に被さり、露呈断面に幾層にも堆積している様子を観察することができました。

この多重地層に植林した国有林の杉が昨年の水害で流木となり、濁流土砂と共に災害をもたらしたということになります。

小岩内集落の住民は56年前の羽越水害経験から、とっさに高台避難を挙げて人身被災を回避しました。この英断力を復興の原動力に転換しようとしている姿勢が印象的でした。

石油と火山灰をみよう（第2回親子自然教室）

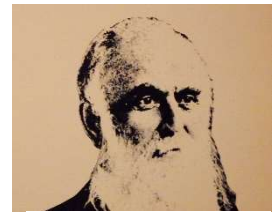
8月5日（土）にシンクルトン記念公園で「石油（油坪と館内見学）と火山灰をみよう」（第2回親子自然教室）がありました。参加者は2家族4名とスタッフ3名、計7名でした。

胎内市の石油は、1,300年前、天智天皇に「越の燃える土、燃える水」を献上したことで有名です。

猛暑の続くこの日、最初の活動は、下館の土取場。この露頭の七谷層の中には何層かの火山灰が挟まれています。この中の特に厚さ30mを超す層は、研究者によれば約1,528万年前に噴火した鳥坂山（438.5m）からのものとか。未固結の火山灰を観察し感触を確かめ、少量ずつ採集しました。

その後、資料館に戻り、今日のために開館し待っていてくれた胎内市教育委員会の係員の案内で展示品の説明を聞きながら見学してまわりました。シンクルトンというのは明治時代に来日した英国人の医師の名。博士が指導して石油を採掘した木枠の井戸が当時のままに保存されていました。

最後に、公園の遊歩道のあるきながら油坪（原油が湧き出ているところ）や石油井戸を見学しました。



シンクルトン博士



親子観察会に参加して

村上市 菅井美智子さん(会員)

シンクルトン記念館を親子で見学させていただき、石油について教えていただきました。娘は、動植物の死骸が何億年も長い時間をかけて堆積し、地圧や地熱などを受けてさまざまな変化のもとに燃料になることにとても驚いていたようです。

また、火山灰や岩石などについても詳しく教えていただいたり、葉の化石を見つけることができたりと、娘にとって得難い体験をさせていただきありがとうございました。

役員会開かる

第1回役員会が7月22日（土）、村上市教育情報センター会議室で開かれました。出席者は12名。以下に、概要を紹介します。

最初に、5名の新入会員があったことが報告されました。

主な議題は①前期の事業の実績と総括、②後期事業の推進、③会計中間報告の3件でした。②の観察会場では、昨年夏の県北豪雨の被災で各所が交通止めなどになっているため、修正して実施することになりました。

その他、10月21日（土）に市ふれあいセンターで「環境フェスタ in 村上」が開催されること。これには、延期されていた「要害山の自然②」（鳥類と水生動物など）を展示する。

会報担当として、斎藤美奈子会員が新しく担当する。

HP開設に関しては、会員から、内容に個人情報が含まれていて問題なので対応を検討した方がいいという意見が寄せられたことに対するもの。維持に予算を伴う点もあり、次期役員会で対策案を提示し、最終的には総会で決定することになりました。以上です。



いわふね自然愛好会会報 第57号
発行者：会長 富樫 繁 春
〒958-0213 村上市早稲田 1962-47
Tel. Fax 0254-73-1348
E-mail : sph43t89@ozzio.jp

編集：会報担当 斎藤美